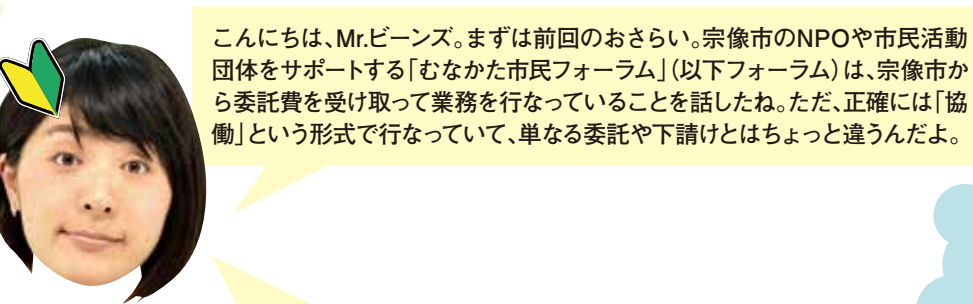


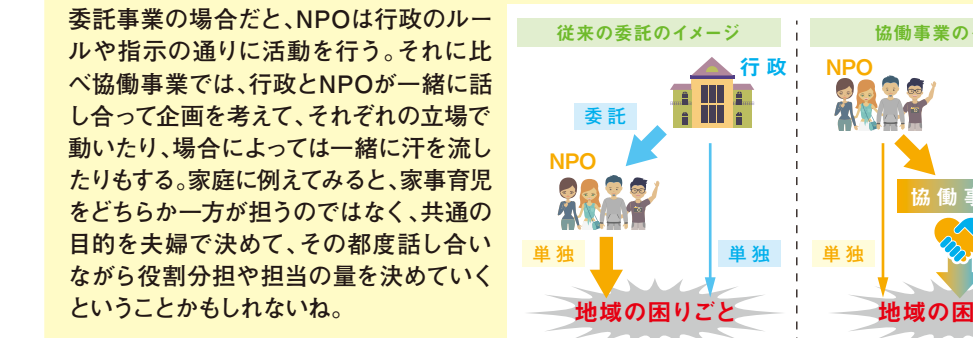
NPO豆知識

今回のテーマはMr.ビーンズも聞きなれないという「協働」について。「協働」って一体どんな仕組みなのでしょう？むなかつ市民フォーラムと宗像市を例にのぞいてみましょう。本コーナーではNPOの謎めいた実体を、NPO1年生のしぎょうさんとMr.ビーンズと一緒に学んでいきます。

NPOと行政の協働～協力して仕事を進めていくために～



その説明には下図を見てもらったらわかりやすいかも。



行政が委託ではなく協働を選ぶことで、事業を進めるにあたって踏むべき工程は増えるけどね。NPOのもつ専門的な知識や地域のつながりなどが活用できることは、よりよい事業成果が期待できるという点で、メリットだろうね。もちろん、NPO側も行政と連携している点で安心感を持ってイベントなどに参加してもらえること、行政のもつ広報媒体を活用できることなど、たくさんの良い点があるよ。例えば9月からスタートする「Local×Design Academy」は宗像市とフォーラムの協働事業の一つだけど、それぞれができることを確認し、連携して事業を行なっているよ。

- | フォーラムの役割 | 市の役割 |
|---------------------------------------|---|
| ●企画・構成立案
●準備や当日の運営
●参加者の情報管理 など | ●会場費や講師謝金など費用の負担
●参加者移送手段の提供(公用車、公用バスなど)
●市の広報紙への情報掲載・ポスター掲示 など |

業務的なことの他にも月に一度合同会議を開いたり、協働やまちづくり関係の研修と一緒に参加してるね。意見の相違があるときにはお互いが話し合えるような、日頃から良好なコミュニケーションをとれる関係性を心がけているよ。「行政」と「NPO」という立場の違いを超えて人と人で理解し合うことが、一緒に仕事をする上で一番大事だと思うなあ。

えっ！Mr.ビーンズ、NPOで活動してたの！？

NPOに対して批判的だったMr.ビーンズが、実はNPOで活動していた？次号は内部のコミュニケーションについて目を向けてみましょう。ふらぐ冬号に続く！

登場人物

しぎょうさん

一般企業を辞めてむなかつ市民フォーラムに転職してきたNPO1年生。(ハイボールを飲みながらつまむピスタチオが大好き)

Mr.ビーンズ

NPOというものの実態がよくわからず、うんざりしている。しぎょうさんの友達。(しかし実のところNPOにすごく興味がある)

今回の？ Hatena

前回のお話はここから

ふらぐ2107年夏号 (vol.17)「NPOで働く」

<http://kouryukan.com/data-file/magazine/88.pdf>

そこです。結局、委託費を受け取って市の仕事をしているところまで下請けじゃないですか。一般の下請け会社とどう違うんです？



だけど行政からすると自分たちだけで進めるか、最初に全部決めてお願いした方がお金も時間もかからないんじゃないですか？わざわざそんな面倒臭いことをする必要がどこにあるんだい？

!?

ふん。そもそも外部組織との話し合いよりも、一緒に働く組織内部の方を重視して欲しいですよ。僕が前に所属していたNPOは、内部分裂を起こして結局解散したんです。それ以来、NPOと聞くとうんざりして…

監修／特例認定NPO法人アカツキ

カタログム代表
株式会社三角形代表取締役
むなかつ市民フォーラム理事
福岡 佐知子

無職のボランティアから任意団体を立ち上げ、株式会社をつくり、ワインバーを始めてしまった現在に至るまでの5年間。今や笑い話、紆余曲折なまっすぐ一本道の私の物語。

想定外の事件に巻き込まれ (Story 1 参照)、仕事を失った私たちはまず、関係のある方たちへお詫びや説明に伺いました。「すみません」といってほしいからと励ましてくれたり、「これからどうするの？」と心配してくれたり…。そんなマイナスからのスタートで、やりたい漠然としたイメージや想いはあれども、仕事もない、何一つ実績のない私たちは、最初に未来への期待を込めて、団体名をつけました。そこで、「名刺」と「事務所」という最強アイテムに出会うのです。

名刺はいわゆる両A面、一面はデザイン会社の企画営業の肩書き、もう一面はできたてのほやほや、実績なしの団体「カタログサンカッケー」のものでした。大勢の人と出会う私たちの特性を見て、デザイン会社の広報媒体として無料で作成してくださったのです。

事務所を借りるきっかけも突然やってきました。私たちの漠然としたやりたいことを話していると、ある方がそれには地域に実際の住所を置くこと(信頼)が必要だと力説するのです。もちろん、仕事もお金もない私たちが事務所の費用を払えるわけがありません。「いえ、お金はないです」と反論すると、自分の物件が長く空いていて払えるだけの家賃でいいから、と半ば説得され、連れて行かれた場所には…

昭和で時間が止まったままのスナックでした。つづく

世界遺産の街で非日常の体験を。

ロープレむなかつ 2017

2017.10/1 (日)-11/29 (水)

「世界遺産の街で非日常の体験ができること」がロープレの魅力です。開催2年目となる今年はここでしか体験できない11のプログラムをご用意しました。プログラムを通じて宗像の持つ豊かな資源と、人との出会いをお楽しみください。

詳細、お申込み方法などは下記URLもしくはQRコードから

<http://forum-munakata.org/rople>

宗像特産品 プレゼントコーナー

宗像の特産品、農業福島園のお米「ミルキークイーン3キロ」が当たる!!

右記QRコードまたはURLからアンケートに答えていただいた読者の皆様の中から抽選で、「農業福島園のお米、ミルキークイーン3キロ」をプレゼント!美味しいお米をゲットしよう!

<http://ur0.biz/FCAT>

抽選で2名

抽選締切は10月15日(日)アンケートはこちら!!

農薬も化学肥料も使わない、宗像のお米。

自然の循環に沿った農業を実践している農業福島園。地域に根ざした百姓であること、顔の見える生産者であることにこだわり、収穫したお米は園主自ら、そのほとんどを直接消費者に届けている。生産者と消費者の距離の近さが人気の秘密だ。ミルキークイーンはふつうのお米より柔らかいため、水の量を10%ほど少なくすると程よい硬さが得られる。冷めても硬くなりにくくおいしく食べられるため、おにぎりにもおススメ。

生産地:宗像市光岡 ミルキークイーン:¥700/kg 注文方法:下記連絡先より受け付けています。TEL:0940-36-1958 FAX:092-303-8408 (平日9:00~17:00) E-MAIL:info@100sho.net 農業福島園WEBサイト:https://100sho.net facebook:【農業福島園】で検索

ふらぐ

この世界にはロマンがある

¥0 TAKE FREE

LDALレポート

Story02

やりたいことのつくり方、ではなく、つくれる方

10 コミュニケーションが一番の健康の源

宗像産のお米が当たる!!

宗像特産品 プレゼントコーナー

詳しくはウラ面をご覧ください。

NPO豆知識

NPOと行政の協働

～協力して仕事を進めていくために～

表紙イラスト／イサヤマナオヤ (napsac)

目からのうしろ

第10回

つぶめ

好奇心旺盛なタチバナくんが地域にのしかかる課題について取材してきました。

コミュニケーションが一番の健康の源

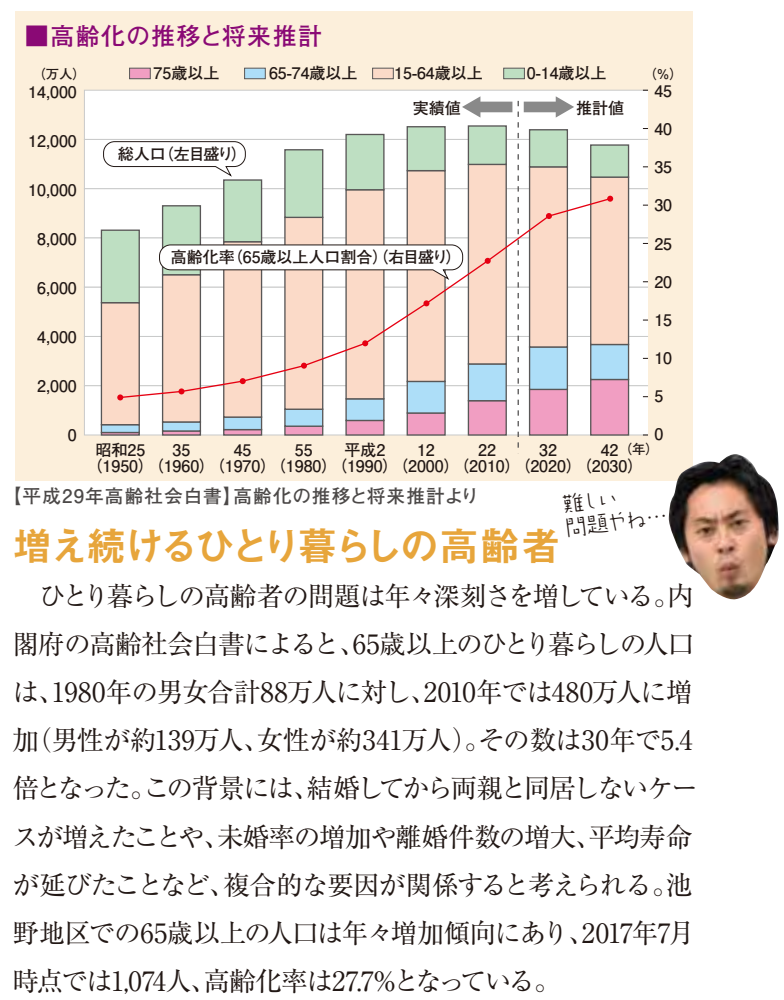
取材に行ってきたばい

家族や地域とのつながりが持てず、社会的に孤立するひとり暮らしの高齢者の数は年々増加している。その問題にいち早く気づき実践してきたじょうもんさん会の活動が地域にもたらすものとは？

ひとり暮らしの高齢者にお弁当を届ける

「じょうもんさん会」は宗像市の池野地区で月に一度、第4木曜日に75歳以上のひとり暮らしの高齢者に手作り弁当を届けている。登録しているのは約20人、お弁当はすべて無料だ。食材費はコミュニティ運営協議会や社会福祉協議会などから援助があるが、メンバーによる手出しも少なくはない。お弁当づくりは役割分担して作った料理を持ち寄り、それを当日の朝に盛り付ける。メニューも健康に配慮したものばかり。お弁当には来月の日付を記入したシールを貼り付ける。シールの効果は絶大で、これにより日にちを間違えることが格段に少なくなったという。

配達準備が整うと、来月のメニューについての会議が始まる。メンバーの花田さんが書き留めたノートにはこれまで作ってきたお弁当の内容がぎっしり詰まっている。これをもとにメニューを決定し、誰が何を作るかを決める。かかった時間は5分ばかり。その後はお菓子とコーヒーを片手に談笑が始まる。11時が近づくとお弁当を箱に詰め、さっそうと地域パトロールカーに乗り込み、1軒1軒届けに行く。車内では車が揺れ動くほど笑っているメンバーの姿があるのがいつもの風景だ。



フロフイール じょうもんさん会

メンバーは4人で代表を務めるのは大滝節子さん。21年前に宗像市の池野地区で設立。きっかけは池野への地域貢献への思いからだ。『21年前に池野で実施されてない活動は何だろうかと考え、他地区で行っていた高齢者への配食の活動を視察しました。それがこの活動の原点です』。初代会長が博多から嫁に来て『じょうもんさんやね』と博多の方言で言われたことがそのまま団体名となっている。

体は変わりなかね？

配食先は、高齢者支援センターや民生委員からの要望などにより決定しているという。『夏場でクーラーをつけているかを確認してほしい』など個々の家庭に応じた要望も受け付けている。みなさんじょうもんさん会の到着を心待ちにしている様子で『あんたたちの来るとが毎月の楽しみ』と満面の笑みで嬉しそうに話す。家に誰もいないときは見つかるまで探したこともあったそう。転倒して頭を打ってそのまま身動きがとれなくなってしまった高齢者を発見し、すぐに救急車などを手配したこともある。

「お弁当を渡すのは二の次です。一番の目的は声かけ訪問なんです」と大滝さん。健康状態や家の中が散らかっていないかなど変化を敏感に察知する。ひとり暮らしの親を持つ子からすると最も気になる要素が安否確認という声が多い。じょうもんさん会の配食はひとり暮らしの世帯にとっては大きな意味を持っている。

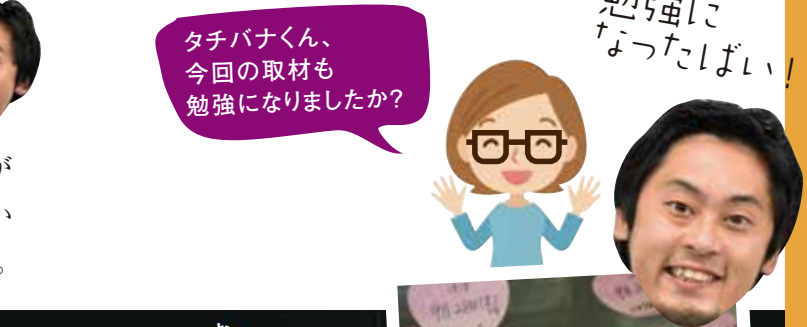
夫が入院してもなんのその

「今日も笑ったー！今日が1ヶ月の中で一番笑う日。シワが増える日なんです」とじょうもんさん会の活動には常に笑いが絶えない。配食は21年間、一度も休むことなく続いている。



「夫が入院した時も活動は休みませんでした」と大滝さんは大笑いしながら話す。設立当初からメンバーの数は4人。初代会長が引退し、入れ替わりに池浦さんが加わった。解散の危機はもちろんのこと、ケンカすらしたことがないという。『自分たちのできる範囲で無理なく活動を続けています。何より楽しむことが一番』。21年経ったにもかかわらず、団体の活動は全く色あせることがない。

メンバーの最高齢は仲間内からお母さんと慕われている82歳の岩田さん。年齢を感じさせないほどパワフルで元気なのは、活動が続ける中で話したり、笑ったりすることが大きな要因となっていることは間違いないという。『私はまだ77歳よ』と言い放ち、パスモのケースに記入してあるその年齢を見せると『あつかましい！』と一同大笑い。じょうもんさん会の活動を見ていると、地域活動の本来の姿はかくあるべきではないかと強く感じさせられる。



NPOに生息している人ってどんな人？
ありのまま、そのままの「人」に
焦点を当てるコーナーです。

Vol.06

Profile

うつみ りょうすけ

内海 良介さん

NPO法人ファザリング・ジャパン九州 会員

モットーは「向き不向きよりも前向きに」、座右の銘は「良き介在を」

「カッコイイ男って社内評価よりも家庭内評価が高い男なんですよね」

ファザリング・ジャパン九州(以下FJQ)っていうNPOがあるらしいよ。父の日の企画はそこに協力してもらったらどう？

2014年4月、商業施設の販売促進課に異動したばかりの内海さんは、2ヶ月後の父の日に向けて企画を考えることになっていた。FJQとの関わりはそんなところから始まった。

FJQは、2006年東京で設立されたNPO法人ファザリング・ジャパンの九州支部。その目的の一つ。『良い父親』ではなく、『笑っている父親』を増やすこと。仕事も家庭も両立できる父親の存在は母親の育児のストレスを和らげ、子どもをより大切に育てられる社会の実現に繋がるとして、父親支援事業を行うNPO法人である。

内海さんは博多の居酒屋の一人っ子として生まれた。昔から人を楽しませることが大好きで、高校時代は相方とお笑いやコントに明け暮れた。千葉で人材紹介の仕事をしていたとき東日本大震災に遭遇。生まれたばかりの子どものことと考え、福岡に戻ることを決めた。現在は妻、長女、次女の4人家族。『家族・家庭』を人生の最重要テーマとしている内海さんが、本格的に育児に取り組むようになったのは次女が生まれてからだという。

「FJQに出会った年の1月、次女が難聴の障がいをもって生まれました。それまで育児を任せきりにしていた妻を大切に想い、上の子も下の子も、妻と一緒に育てていこうとしていた

頃、FJQを紹介されたんです。育児に向き合うタイミングがきているんだと感じました」

FJQのメンバーの一員になった内海さんは妻の理解もあり、7ヶ月の育児休暇をとることを決意。『育児と育自』の機会と捉え、子どもの療育とワークライフバランスを高める時間の有効的な使い方を徹底する中で、さまざまな気づきを得たという。

「人生の目的は、“家族を一番に考え、家族のために生きる”ことであって、仕事や評価はその手段でしかないんだなあと、改めて気づきました。そして今までは子どもを可愛がることだけが育児だと思っていたんですが、周りの先輩パパたちを見ていてもっと子育てを楽しんでいいんだって。パパとしての楽しみ方があることを教えてもらいました。」「育児と仕事の両立なんて当たり前でしょ」と妻は辛口だが、以前にも増してなつくようになった子どもたちの様子は、内海さんの家庭内評価が上がったことを物語っている。『FJQは自分にとって、パパとしてお手本になる人たちで構成された“応援団”です。FJQの扉を叩くパパの役に立てたら嬉しいです」

取材／執行沙恵



地方での新しい仕事のつくり方。

Local × Design Academy

MUNAKATA 2017

【ローカル×デザインアカデミーむなかた 2017】

今年もローカル×デザインアカデミー開催！
オープンキャンパスが行われました！

9月10日開講のLocal×Design Academy2017に先駆け、8月23日にオープンキャンパスをメイトム宗像で実施しました。講師に株式会社まめくらしの青木純さんを招き、県内各所から40人を超える参加者が集まりました。『境界線のゆるやかな、暮らす人が“主役”のまち』の実現を目指し奔走する青木さんの、成功ばかりではない、失敗談も交えた話は参加者を魅了し、『もっと聞きたかった!』と大好評でした。Local×Design Academyはこれからの宗像を考え・行動するきっかけに出会える学びの場です。実施2年目の今年度は「地方での仕事のつくり方」をテーマに、9月～11月にかけて全3回の講義を実施します。

※今後の活動の様子は、むなかた市民フォーラムのサイトでご覧いただけます。